

西諸県地域の普及活動

令和5年6月
西諸県農林振興局
(西諸県農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) JAこばやしアグリトレーニングセンター第4期生 修了式の開催

21日、JAこばやし本所にて開催され、第4期生の遠藤浩之氏、遠藤優華氏が所定の研修期間を終え無事、修了式を迎えることとなりました。

式の中で、寺師組合長から「これからもトレーニングセンターでの教えを活かし、地域の起爆剤となるようなりっぱな経営者になってください。」と激励されました。

研修期間の成績は優秀で、促成きゅうりの収穫計画以上の収量をあげており、就農後の活躍が大いに期待されます。



【研修生を囲んでの集合写真】

2) JAこばやしアグリトレーニングセンター第5期生 入講式の開催

26日、JAこばやし本所で、第5期生の中間寛人氏と中間由香里氏夫妻の入講式が開催されました。

式の中で、関係者を代表して普及センターから、研修期間中は様々な困難があるが、抱え込まず関係者に相談して欲しい。そして、自分の描く理想の農業者となるよう励んで欲しい」と激励の言葉を述べました。

両氏は、来月からトレーニングハウスで研修に入り、1年後に就農する予定です。今後は、スムーズな就農ができるよう関係機関とともに支援していきます。



【研修生を囲んでの集合写真】

3) 第64回宮崎県畜産共進会へ向けた西諸代表牛決定検査（一次予選）が開催

5日、小林地域家畜市場において、西諸代表牛決定検査（一次予選）が開催されました。

第1類（生後12ヶ月以上17ヶ月未満のめす）は26頭、第2類（17ヶ月以上22ヶ月未満のめす）は23頭、計49頭の引き出しがありました。審査場に並べて、技術員による審査（各牛の測尺と栄養度判定）が実施されました。今回出品された全頭が、二次予選に進むこととなりました。

牛の選抜は7月3日（月）の二次予選から行われます。

第64回宮崎県畜産共進会肉用種種牛の部は10月4日（水）～5日（木）、乳用種種牛の部は11月26日（日）～27日（月）に開催予定です。



【審査の様子】

4) 6月期子牛郡品評会が開催

8日、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜連主催による令和5年6月期子牛郡品評会が開催されました。品評会には、雌子牛45頭が出品され、審査の結果、優等賞に7頭、壹等賞に20頭、貳等賞に17頭が選ばれました。なお、優等賞首席は小林市の森田悠斗さん出品の「ひかりゆう」号（二刀流－忠国桜－勝平正）、2席は小林市野尻町の野下幹夫さん出品の「みらい8」号（富久竜－勝平正－美徳国）、3席は小林市の立山健二さん出品の「ひかる1355」号（白隆鵬－勝平正－福桜）が受賞しました。



【優等賞首席 ひかりゆう号】

講評では、体の伸び、体上線の強さ、骨じまりや後軀から見たときの幅が評価されました。

5) JAこばやしゴーヤー生産部会品評会

14日、JAこばやしゴーヤー生産部会の品評会が開催され、普及センターは審査員として参加しました。審査では、「果形」「色艶」「揃い」を5段階で評価しました。

上位の生産者は、果形と揃いが特によく、それ以外の生産者も、ゴーヤーの肩のハリが良い物や色艶がある物など、生産者のこだわりがよく伝わってきました。

この品評会での評価が、生産者にとって良いモチベーションとなり、品質向上につながるよう支援していきます。



【ゴーヤー生産部会品評会】

II 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動

(持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

1) 就農相談会を実施

28日、小林市で父親の肉用牛繁殖経営を継承し、現在の建設業との兼業で就農を希望している方の相談に対応しました。父親の所有している牛などについて、家族間での話し合いができていない状況だったので、まずは家族間で今後の方向性を整理していくことが必要であることなどを助言しました。

※就農相談対応(面談)等 1名1回

(内訳：小林市：肉用牛繁殖1名)

2) アグリ★ベーシックセミナーの第1回、第2回を開催

8日、普及センターで第1回アグリ★ベーシックセミナーを開催し、6名の新規就農者等が参加しました。内容は「農業を始めるための基礎知識」や「鳥獣被害対策」、「病害虫対策」で、講師は普及センターが務めました。「農業を始めるための基礎知識」では、西諸県地域の農業の特徴や新規就農者支援の状況を学びました。「鳥獣被害対策」と「病害虫対策」では、被害が起きる原因について知識を深め、その対策方法を学びました。

22日、普及センターで第2回アグリ★ベーシックセミナーを開催し、第1回に引き続き6名の新規就農者等が参加しました。内容は「GAP」及び「植物生理」で、講師は普及センターが務めました。「GAP」では、持続可能で安全な農産物生産を実践するための取組であるGAPについて学びました。「植物生理」では、植物の吸水や光合成の仕組みなどについて知識を深めました。参加者は、熱心に講師の話に耳を傾けている様子で、受講後アンケートの満足度も高く、充実したセミナーとなりました。

当セミナーは、農業全般コースをあと2回、畜産コースを4回実施し、次回は7月6日(木)午後1時30分に、農業経営と植物栽培についてのセミナーを開催予定です。



【第1回「基礎知識」の講義の様子】



【第2回「GAP」の講義の様子】

(未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現)

1) 畦畔除草剤試験の実施

19日に、えびの市にて畦畔除草剤展示ほの2回目の散布を実施し、23日に、高原町にて同様に2回目散布を実施しました。

1回目の散布から約1ヶ月半～2ヶ月経過しており、スギナやヨモギ等の雑草が多く生えていました。2回目は雑草を枯らすザクサ液剤と雑草の発生を抑えるダイロンゾルの混合剤を散布しました。

今後は、除草効果、雑草の密度や畦への影響がなかったか等を定期的に観察していきます。



【2回目散布後1週間の様子】

2) 水稲奨励品種決定調査試験の田植え実施

12日に、えびの市の勘場さんの水田で、今年度は、南海188、189号の2系統の水稲奨励品種決定調査試験の田植えを行いました。

他地域でも、南海188、189号の試験に協力的な生産者も増えており、今後、生育調査や、収量調査等を行いながら、現地適応性や食味の観点での検討をしていきます。



【田植え時の様子】

3) 高密度播種苗田植え実施

24日、小林市真方の水田で、大川平さんによる高密度播種苗（密播）の田植えが行われました。

昨年と同様に密苗は、軽量培土にヒノヒカリ乾もみ250gを播種したものを用いました。

田植えは、育苗箱17.2枚で1.5反分の植え付けができ、育苗箱の削減が図られました。今後は生育調査や、収量調査等を行っていき、慣行の苗（乾もみ160g）と比較して生育や収量に差がないか見ていきます。



【田植前の密苗】

(にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

1) 小林市と共同のさといもの展示ほでかん水中

小林市と共同で、疫病対策を講じながらさといもにかん水を行う展示ほを設置しています。

昨年度は、早生さといもでの展示ほで、高い増収効果が確認できたので、今年度は、中生さといもでかん水を行う展示ほを設置しました。

生育初期から芋の肥大を促進すると共に、土壌水分を適湿に保ち続けることで、割れを防止することを狙っています。

今後も、発生の状況を確認しながら随時かん水を行うとともに、生育などの調査を実施していきます。



【大型スプリンクラーを設置】

2) 西諸県サツマイモ基腐病等対策会議の開催

19日、小林総合庁舎において西諸県サツマイモ基腐病等対策会議を開催し、市町、JA及び酒造組合等から16名が出席しました。

会議では、令和4年度の活動実績や令和5年度の活動計画に関する報告が行われました。また、サツマイモ基腐病の防除暦や対策マニュアル及び新規登録農薬の効果的使用に関する情報提供も行われました。

今後も関係者と連携して、サツマイモ基腐病発生防止に向けた活動をを行っていきます。

3) サツマイモ基腐病の発生状況調査の実施

28日、30日に、JA、市町担当者と連携して、管内の定点ほ場におけるサツマイモ基腐病の発生状況調査を実施しました。

今回の調査では、全てのほ場でサツマイモ基腐病の発生は確認されませんでした。

今後も、10月までの期間中に、関係機関と連携して調査を実施する計画です。



【発生状況調査ほ場】

(魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

1) シャインマスカットの日焼け対策試験

15日、小林市内のブドウ園にて日焼け対策として傘かけ・色袋調査を行いました。近年、温暖化に伴い、小林市でもブドウの日焼けが問題となっており、特に昨年は梅雨明け後の晴天時にシャインマスカットやクイーンニーナでの日焼けが散見されました。

そこで、今年度から傘かけや遮光率の高い青袋を使うことによる日焼け防止効果を調査しています。今回は傘かけの作業時間測定と袋内の温度計設置をしました。

今後は、JAや技術員会、生産者と協力し、9月に果実調査を行い、傘や色袋の日焼け防止効果について検討していく予定としています。



【シャインマスカット日焼け対策】

2) クリ着花調査 (JAえびの市、小林市須木地区)

19日、JAえびの市担当者、小林市須木庁舎担当者とクリ着花調査を行いました。2園地で5樹、10結果母枝の着花数を数えましたが、1結果母枝あたりの平均は、それぞれ平年並みかやや少なめでした。生理落果後の着果調査は7月20日の技術員会で行う予定です。



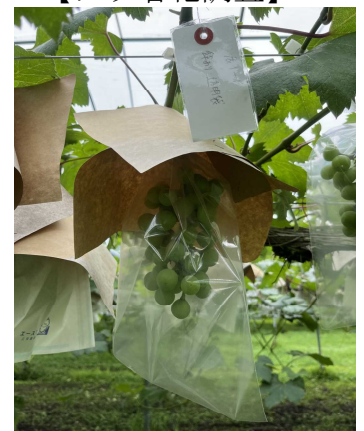
【クリ着花調査】

3) クイーンニーナの着色向上試験

26日、小林市内のブドウ園にて透明袋による着色向上調査を行いました。ピオーネ、シャインマスカットに続く、西諸県の主力品種であるクイーンニーナですが、きれいな赤色の着色が難しいことが問題となっています。そこで、光をより多く房に当て、着色を向上させるために、通常の白袋の代わりに透明袋をかける試験を行っています。

今回は、透明袋の袋掛けを行いました。日焼け対策として傘かけも事前に行っており、袋の掛けづらさが気になりました。

今後は、JAや技術員会や生産者と協力し、9月に果実調査を行い、傘や色袋の日焼け防止効果について、作業性も含めて検討していく予定です。



【クイーンニーナ着色試験】

4) 小林青果 出荷組合園地巡回

27日、小林青果出荷組合6戸のぶどうの園地巡回が行われ、会員11名、関係機関3名が参加しました。普及センターからは、今後の管理や病害虫対策、生理障害対策について説明しました。園地は8月出荷作型を中心に巡回し、今年のおどりの着色状況などについて意見交換が交わされました。

今年は、シャインマスカットの未開花や縮果症は少なく、順調な生育です。

今後も、生産者や関係機関と協力し、ブドウの課題に取り組んでいきます。



【小林青果 園地巡回】

(西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

1) 高原町花卉部会定例巡回、定例会

22日、高原町管内のキク生産ほ場4戸の定期巡回が行われ、高原町花卉部会員4名、関係機関4名が参加しました。8月お盆出荷作型のほ場を中心に巡回し、生産者や関係機関との間で意見交換が行われました。

巡回後は、定例会が開催され、JAこばやし販売課から情勢報告があり、現在は、単価が下がる時期で、今後お盆に向けて回復するか不明な部分があるなどの説明がありました。また、普及センターからは、病害虫の発生や防除、熱中症への注意、農業気象災害への対策について情報提供を行いました。

今後は、一部の下葉枯れなどの問題について原因究明するため、土壌調査を中心に巡回支援を行います。



【高原町花卉部会定例会】

2) JAこばやし花卉部会巡回、販売会議、総会

29日にJAこばやし管内のキクほ場3戸の巡回を行いました。今回は、3市場の担当者を迎えての巡回で、8月お盆出荷作型の確認及び市場動向などの情報交換が行われました。

また、巡回後は室内で販売会議が開催され、市場関係者と生産者、JAの活発な意見交換が行われました。現在は、コロナが落ち着き、キクの生産量及び消費量も回復している状況にある中、今後の花きの需要動向が気になるところです。産地としては、高品質なキクを安定生産することはもちろんのこと、市場と十分な情報共有を図りながら有利販売に繋げていこうとする姿がうかがえました。

今年度は、4年ぶりの対面での総会も開催されました。来賓も多く、総会後の懇親会では充実した情報交換ができました。



【JAこばやし花卉部会巡回】

2 プロジェクト(総合、専門) 以外の普及活動

1) 西諸県地区果樹技術員会 第2回定例会の開催

28日、JAこばやし三ヶ野山出張所にて第2回定例会が開催され、関係機関12名が参加しました。室内会議では、マンゴー承継について協議し、旬であるマンゴーの食味調査も行いました。食味調査では、今年から新たにキーツを加え、「さっぱりしていて食べやすい。」などの声が聞かれました。現地研修では、マンゴーの選果場見学や園地見学を行いました。園地見学では、今年から炭酸ガス発生装置を導入している園主に直接話を聞き、マンゴーの生育状況を確認しました。

次回の技術員会は7月20日にクリ着穂調査と合わせて行う予定です。今後も関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【選果場見学の様子】

2) 耐暑性リンドウの調査

1日、えびの市管内のリンドウほ場にて、総合農業試験場花き部が設置している耐暑性リンドウの特性調査のため、試験場担当者とともに収穫をしました。

収穫した枝は、花き部が持ち帰り調査をしますが、試験株以外については、生産者が市場へ出荷し、市場から良い評価をいただいたところです。

一般的なリンドウは、5月下旬～6月上旬の時期の出荷が少ないため、本品種は草丈が短いものの、この時期に出荷できる利点があります。

今後は、花き部やJAと情報を共有しながら、耐暑性リンドウの生産性について検討していく予定です。



【耐暑性リンドウ収穫調査】

3) コーン・ペネトメーターによるほ場硬度測定

6日から適宜、西諸県管内のキク、ランタンキュラスのほ場において、コーン・ペネトメーター（以下コンペネ）を用いた土壌硬度の測定を開始しました。コンペネを使用することで西諸県管内の花きほ場の排水性や生育状況などを把握し、今後の土づくりの判断材料とすることを目的としています。

今月から来月にかけて、約20戸のほ場を調査し、傾向を分析しながら、生産者毎の土壌改善に繋げていきます。



【コーン・ペネトメーター調査】

4) 西諸県地区花き技術員会 第2回定例会の開催

23日、JAえびの市にて第2回定例会を開催し、関係機関9名が参加しました。

室内検討では、営振協展示ほ計画・実績検討や事業関係等について協議及び情報共有しました。

現地検討では、JAえびの市管内のユーカリ及びキイチゴほ場を視察し、情報交換を行いました。

今後も関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【花き技術員会現地検討】